Usefulness of a management protocol for patients with cervical multicystic lesions: A retrospective analysis of 94 cases and the significance of GNAS mutation

（子宮頸部多嚢胞性病変に対する当科の臨床診断と対応: 94例の後方視的検討と GNAS 遺伝子変異の意義）
性化変異は2例のLEGH with atypiaでみられ、そのうち1例はフォローアップ中にサイズの増大が見られた症例であった。

【結論】我々が考案したプロトコールは子宮頸部多囊胞性病変の診断と対応において有用と考えられた。特にLEGHのフォローアップに際しては病変の増大が悪性化の徴候として重要である可能性が示された。またGNAS遺伝子変異はLEGHの悪性化に関与している可能性がある。